うらやす

宇部市立上宇部小学校
学校だより　7月号
令和3年6月28日発行

読書好きな子を一人でも多く

校長　三輪　孝行

子どもに「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣やいわゆる躾（しつけ）を行うのは御家庭の役割ですが、学校は学力の定着・向上が主な役割です。
学校生活の8割が授業ですから、子どもにできるだけ『分かる授業』を提供することができるよう、どのように効率よく効果的に授業を展開したらよいかを日々教職員で話し合っています。

先月9日には、3年児童を対象に、体育館で研究授業を行いました。宇部市教育委員会の岡﨑指導主事（昨年度まで本校職員）を授業者に迎え、授業後には教職員で研究協議を行いました。
協議の中で、子どもの表現力が話題になりました。子どもが表現する際の言語をいかに豊かにするか、言語環境をいかに整えるかを考える時にしばしば取り上げられるのが、子どもが行う『読書』です。

本校に赴任して3か月、とても活発な子が多いなという感想と、読書量は少ないのではないか、という思いがありました。
そこで、先月、本校の学校司書　水田先生に、子どもたちの読書事情を伺ってみました。すると、水田先生からは意外な言葉が・・
「ここの子どもたちは、読書をする子が多いですよ。」
お聞きしたのが、梅雨時期であったことやコロナ禍により一人で過ごす時間が多いこと等もその理由に挙げられるかもしれませんが、とても嬉しく思いました。
なぜなら、読書自体の効用は、改めて述べるまでもないからです。

私は、小学生の時こそ、『本と対峙』しながら、『集中』して、『黙って読書』をするということが大事だと思っています。
また、水田先生は、「昨年度に比べて、本を入れるための袋を自分で持ってきている子が多くなったみたいです。読書に関心のある子や本を大切にしようとする子が増えたからではないでしょうか。」「子どもたちには、本を借りる時のマナーや図書室の利用の仕方等もしっかり覚えてほしいですね。」ともおっしゃっていました。

本校では、年間一人30冊の読書をめざして取り組んでいますが、既に達成した児童も数名いるようです。教員が子どもたちに読ませたい本と、子どもたちが読みたい本との違いをどう縮めるかが今の課題です。
子どもたちには、間近に迫る夏休み期間中に、一冊でも多く本に親しんでほしいと願っています。
もっと心優しく、きれいな日本語でコミュニケーションのとれる子どもたちになってくれることを願って、各御家庭で週に1回でも、テレビを消して20分程度読書の時間をつくってみてはいかがでしょう。多忙さに追われる毎日に、きっと忘れていた何かを思い出させてくれるものと確信しています。

さて、みなさんは最近何の本を読まれましたか？